
第2章

自殺の現状

【統計データの見方】

○自殺に関する統計には、主に厚生労働省「人口動態統計」と警察庁「自殺統計」の2種類がある。2つの統計は、調査対象や時点、事務手続きの違いがある。

	人口動態統計	自殺統計
提供元	厚生労働省	警察庁
調査対象	日本における日本人	日本における外国人も含めた総人口
調査時点	住所地を基に死亡時点で計上	発見地を基に自殺死体発見時点で計上
事務手続き	自殺、他殺あるいは事故死のいずれか不明の時は自殺以外で処理し、死亡診断書等について自殺であった旨の訂正がない場合は、自殺に計上しない。	捜査等により、死亡した理由が自殺であると判明した時点で、自殺に計上する。

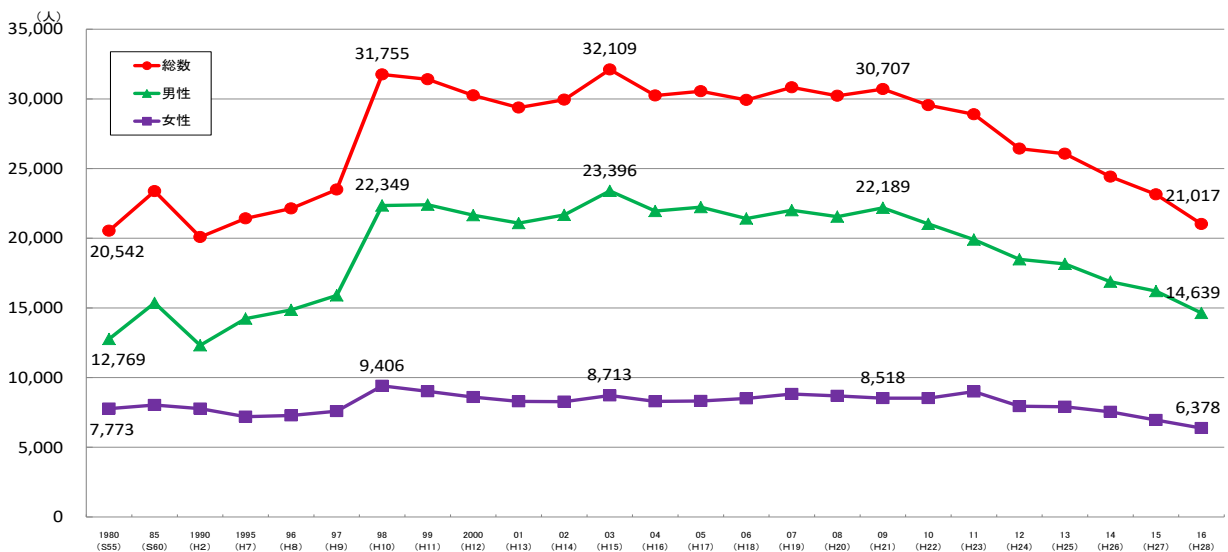
○コメントや図表にある「自殺死亡率」とは人口 10 万人あたりの自殺者数を表す。

1 全国の自殺の動向

全国の自殺者数の推移をみると、1998（平成10）年に3万人を超え、その後減少しますが、2003（平成15）年に最多の32,109人となり、その後は3万人前後と横ばい状態が続き、2010（平成22）年以降減少傾向となっています。また、自殺死亡率の推移も同様の動きとなっており、1998（平成10）年に26.0で急上昇し、2003（平成15）年に27.0でピークを迎え、その後は25.0前後と横ばいの状態が続き、2010（平成22）年以降、減少傾向となっています。

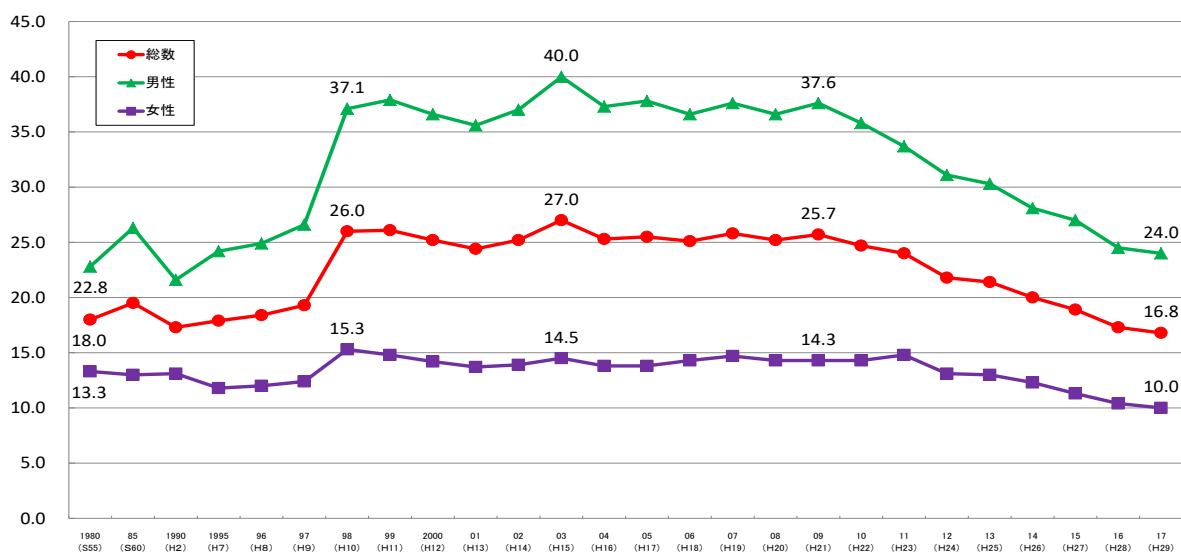
また人口動態統計によれば、年齢階級別の死因は、30歳代までは「自殺」が1位、40歳代でも2位と高い順位となっています。

【図表1 自殺者数の推移】



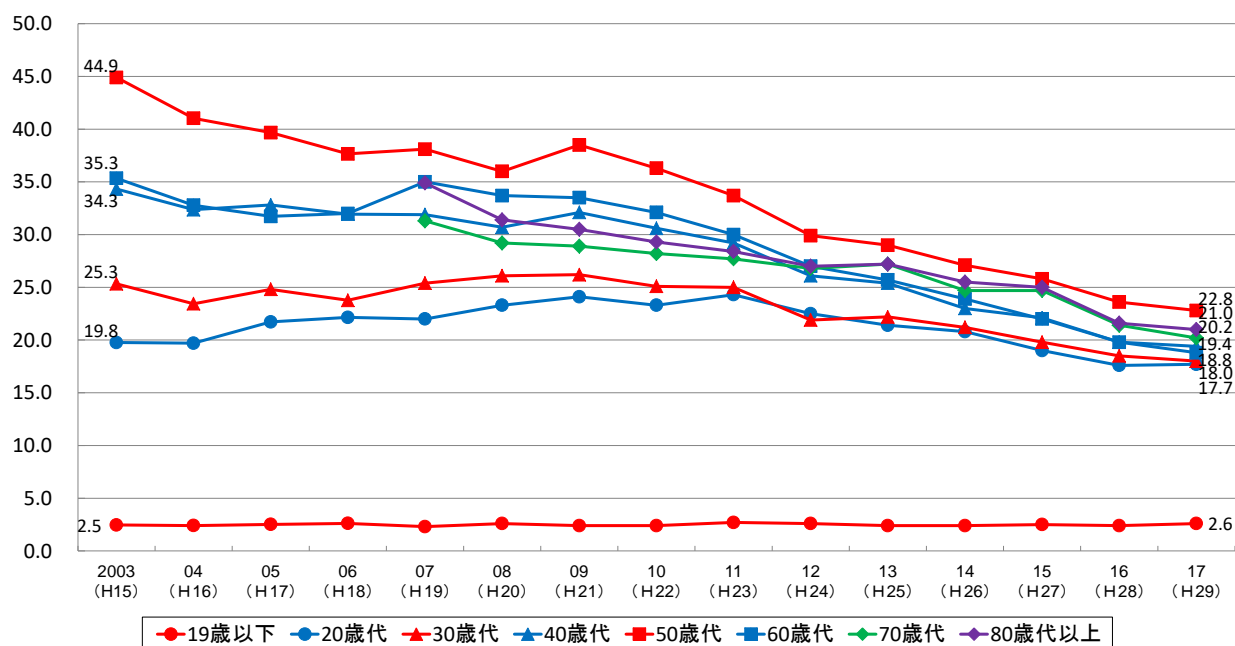
資料：厚生労働省「人口動態統計」

【図表2 自殺死亡率の推移】



資料：警察庁「自殺統計」

【図表3 年齢階級別自殺死亡率の推移】



資料:警察庁「自殺統計」、総務省「国勢調査」及び総務省「人口推計」
 2006(平成18)年までは「60歳以上」であったが、2007(平成19)年の自殺統計原票改正以降は「60～69歳」、「70～79歳」、「80歳以上」に細分化された。

【図表4 平成28年における死因順位別にみた年齢階級別・死因死亡数】

(単位:人)

年齢階級	第1位		第2位		第3位		第4位	
	死因	死亡数	死因	死亡数	死因	死亡数	死因	死亡数
15～19歳	自殺	430	不慮の事故	306	悪性新生物	120	心疾患	45
20～24歳	自殺	1,001	不慮の事故	373	悪性新生物	159	心疾患	108
25～29歳	自殺	1,165	悪性新生物	315	不慮の事故	291	心疾患	156
30～34歳	自殺	1,253	悪性新生物	641	不慮の事故	346	心疾患	248
35～39歳	自殺	1,445	悪性新生物	1,326	心疾患	495	不慮の事故	444
40～44歳	悪性新生物	2,675	自殺	1,739	心疾患	1,095	脳血管疾患	826
45～49歳	悪性新生物	4,753	自殺	1,888	心疾患	1,819	脳血管疾患	1,203
50～54歳	悪性新生物	7,696	心疾患	2,476	自殺	1,853	脳血管疾患	1,628
55～59歳	悪性新生物	12,605	心疾患	3,488	脳血管疾患	2,148	自殺	1,684
60～64歳	悪性新生物	23,343	心疾患	5,824	脳血管疾患	3,324	自殺	1,563
65～69歳	悪性新生物	46,004	心疾患	11,292	脳血管疾患	6,273	肺炎	3,696
70～74歳	悪性新生物	48,833	心疾患	13,353	脳血管疾患	7,667	肺炎	6,032
75～79歳	悪性新生物	58,317	心疾患	20,436	脳血管疾患	12,451	肺炎	11,681
80歳以上	悪性新生物	165,927	心疾患	137,016	肺炎	94,650	老衰	89,982

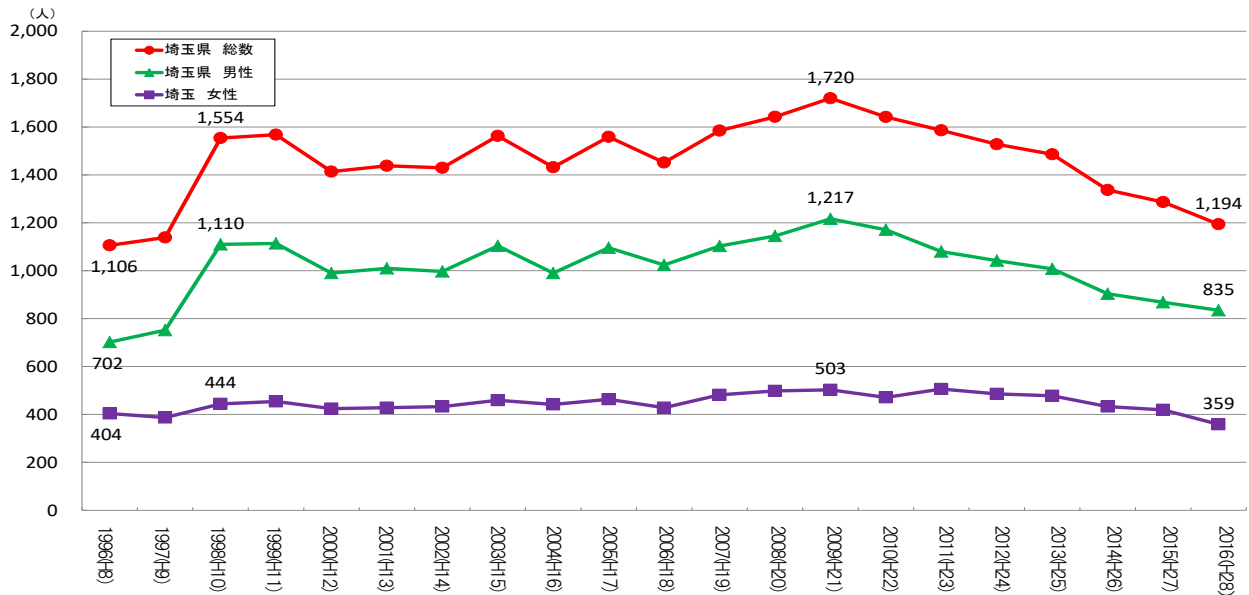
資料:厚生労働省「人口動態統計」

2 埼玉県の自殺の動向

埼玉県の自殺者数は、1998（平成10）年に1,554人と急増し、その後は1,500人前後で増減を繰り返していましたが、2007（平成19）年以降にまた増加に転じ、2009（平成21）年に1,720人でピークを迎えた後は減少傾向が続いています。

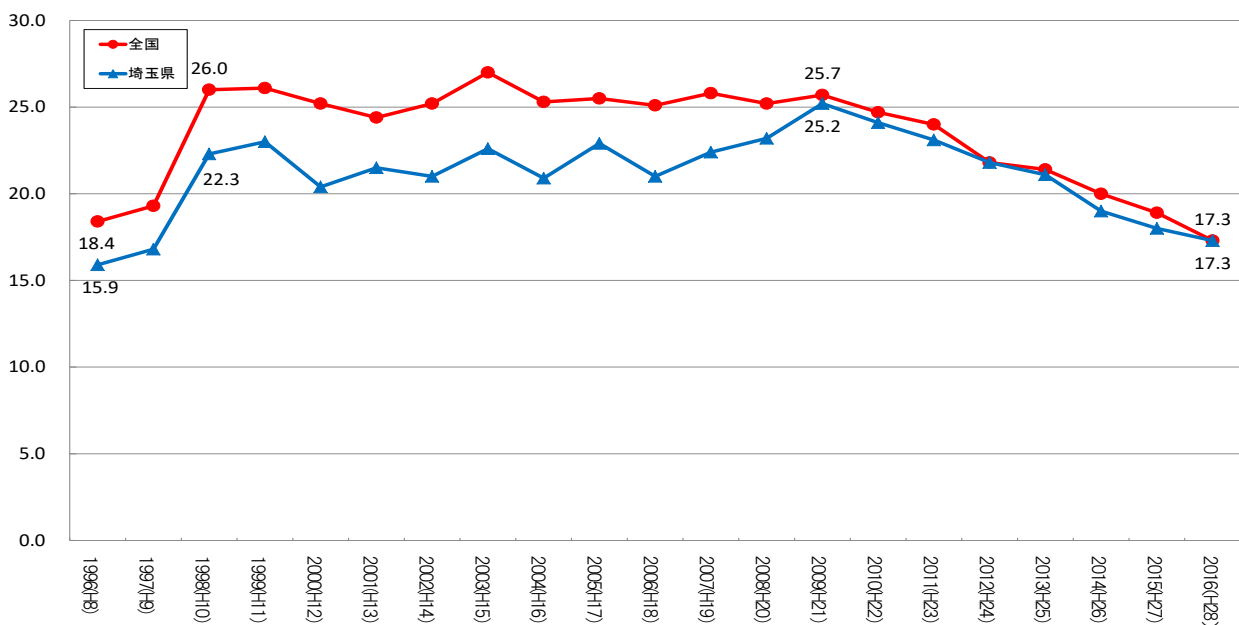
自殺死亡率は、全国よりも低い値で推移していましたが、2009（平成21）年に全国値とほぼ同様になり、それ以降も全国値と同様の推移をたどっています。

【図表5 自殺者数の推移】



資料：厚生労働省「人口動態統計」

【図表6 自殺死亡率の推移】



資料：警察庁「自殺統計」

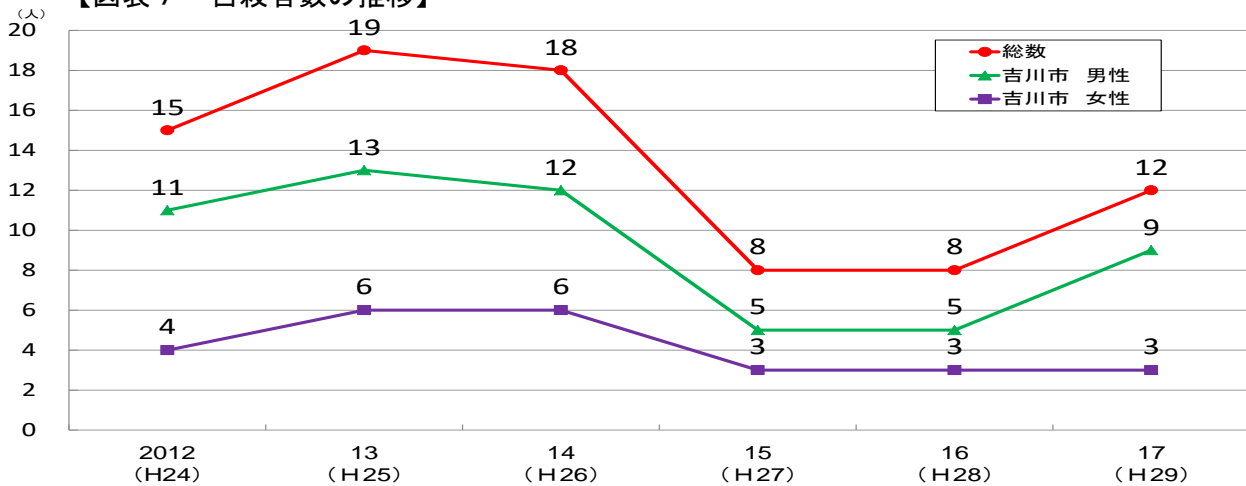
3 吉川市の自殺の現状

(1) 自殺者の状況

本市の自殺者数は、2015（平成 27）年と 2016（平成 28）年に 1 桁に減少となりましたが、2017（平成 29）年には増加に転じています。

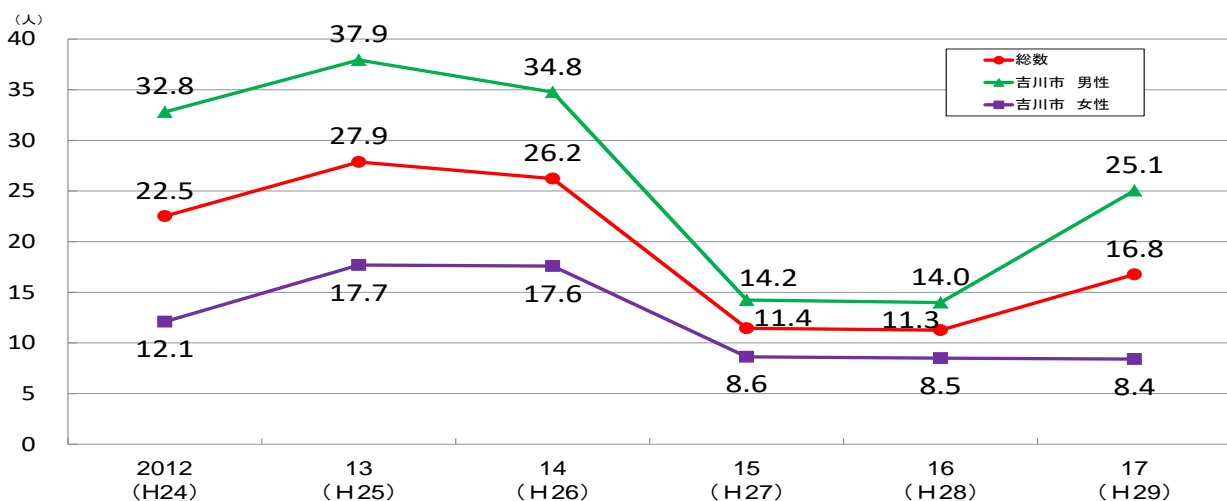
- ☞性別：約 3 分の 2 が男性となっています。
- ☞年齢別：40 歳から 59 歳が最多で、次いで 60 歳以上、40 歳未満の順となっています。さらに性・年齢別にみると、男性の場合は 40 歳から 59 歳が最多で、女性の場合では 60 歳以上が 5 割を超えて多くなっています。
- ☞職業別：無職者の割合が多く、次いで被雇用・勤め人と続いています。
- ☞同居者の有無別：約 4 分の 3 が同居者ありとなっています。
- ☞原因、動機別：「健康問題」が約 6 割で最も多く、次いで「経済・生活問題」と続いています。
- ☞自殺未遂歴の有無別：約 7 割は自殺未遂歴なしとなっています。しかし、女性の自殺未遂歴の割合が男性に比べ高くなっています。

【図表 7 自殺者数の推移】



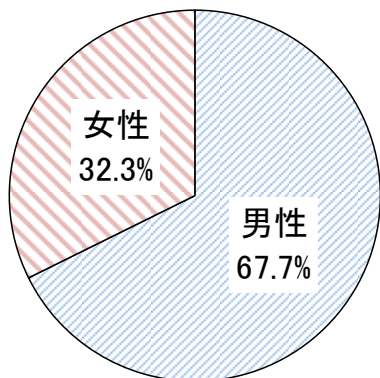
資料：人口動態統計（厚生労働省）、地域における自殺の基礎資料（厚生労働省自殺対策推進室）

【図表 8 自殺死亡率の推移】



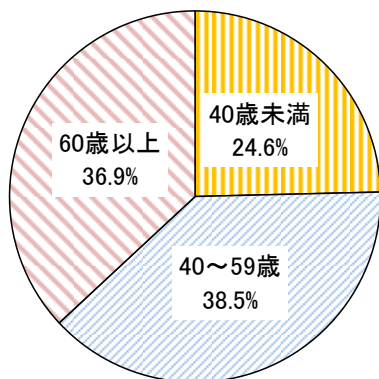
資料：人口動態統計（厚生労働省）、地域における自殺の基礎資料（厚生労働省自殺対策推進室）

【図表9 性別自殺者数の割合】（平成25～29年の累計）



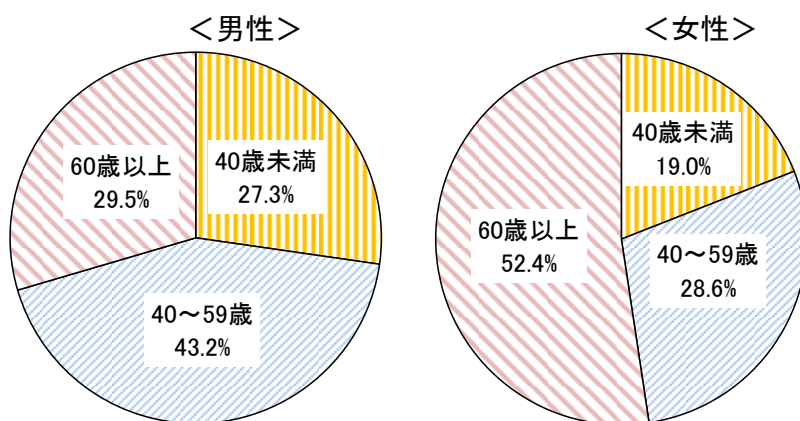
資料:人口動態統計(厚生労働省)、地域における自殺の基礎資料(厚生労働省自殺対策推進室)

【図表10 年齢別自殺者数の割合】（平成25～29年の累計）



資料:人口動態統計(厚生労働省)、地域における自殺の基礎資料(厚生労働省自殺対策推進室)

【図表11 性別・年齢別自殺者数の割合】（平成25～29年の累計）

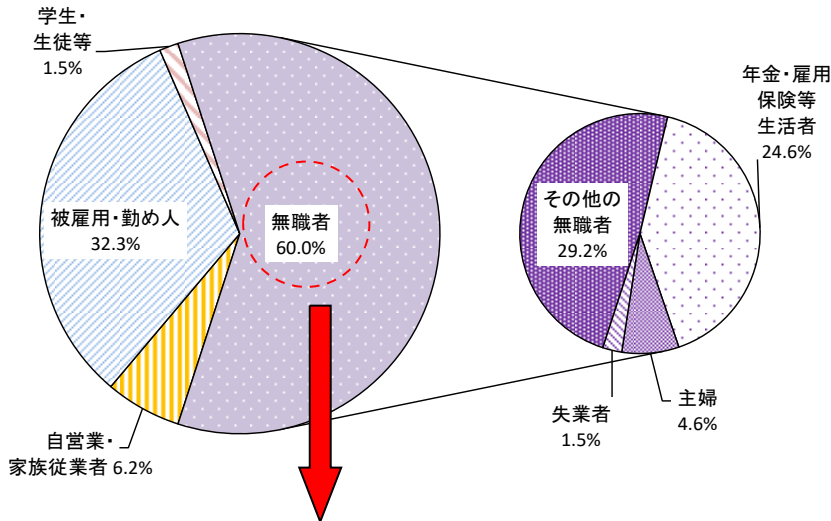


【性別・年齢別自殺者数（詳細）】

	男	女
20代以下	9	2
30代	3	2
40代	13	2
50代	6	4
60代	9	4
70代以上	4	7

資料:人口動態統計(厚生労働省)、地域における自殺の基礎資料(厚生労働省自殺対策推進室)

【図表12 職業別自殺者数】（平成25～29年の累計）

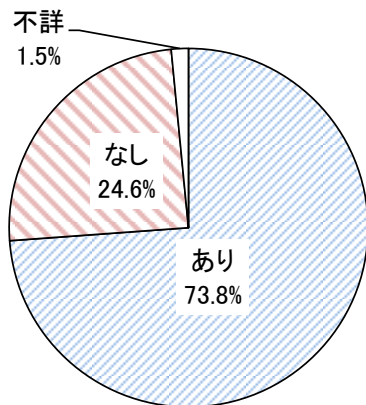


【性別・年齢別に見た無職者の内訳（詳細）】

	男	女
39歳以下	2	2
40-59歳	12	4
60歳以上	9	10

資料：人口動態統計(厚生労働省)、地域における自殺の基礎資料(厚生労働省自殺対策推進室)

【図表13 同居者の有無別自殺者数】（平成25～29年の累計）

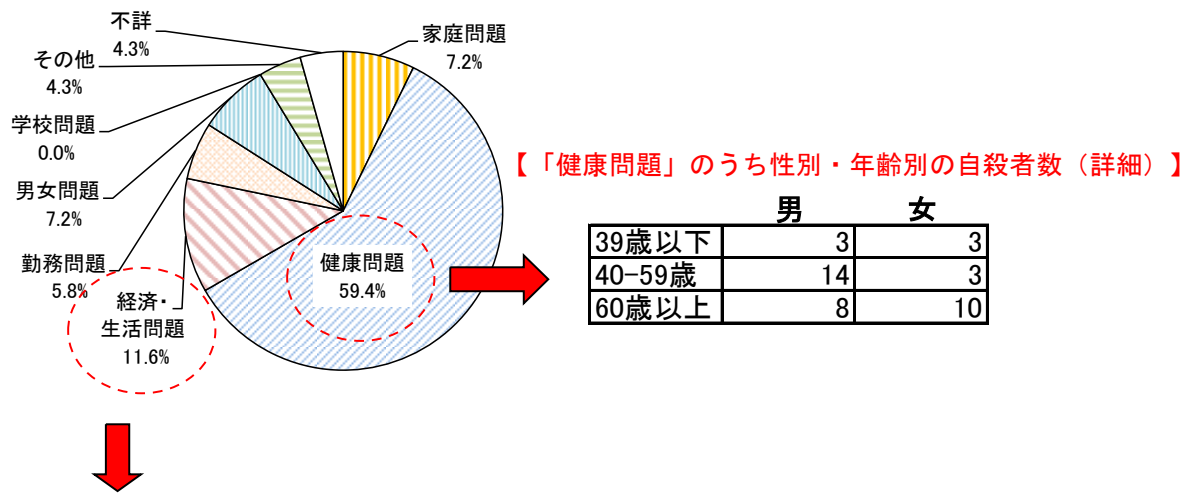


【性・年齢別に見た同居者の有無（詳細）】

		あり		なし	
		あり	なし	あり	なし
男	39歳以下	9	3		
	40-59歳	14	4		
	60歳以上	8	5		
女	39歳以下	3	1		
	40-59歳	5	1		
	60歳以上	9	2		

資料：人口動態統計(厚生労働省)、地域における自殺の基礎資料(厚生労働省自殺対策推進室)

【図表14 原因、動機別自殺者数の割合】（平成25～29年の累計）



【「経済・生活問題」のうち性別・年齢別の自殺者数（詳細）】

	男	女
39歳以下	3	0
40-59歳	4	0
60歳以上	1	0

※複数の項目に該当するものがあるため、各項目の和は合計に一致しない。

資料：人口動態統計（厚生労働省）、地域における自殺の基礎資料（厚生労働省自殺対策推進室）

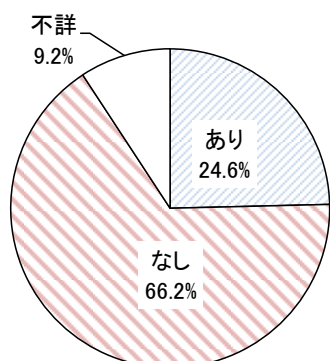
【図表15 年齢別・原因、動機別自殺者数】（平成25～29年の累計）

	40歳未満	40～59歳	60歳以上
1位	健康問題 (6件 37.5%)	健康問題 (17件 68.0%)	健康問題 (18件 75.0%)
2位	男女問題 (4件 25.0%)	経済・生活問題 (4件 16.0%)	家庭問題、不詳 (2件 8.3%)
3位	経済・生活問題、家庭問題 (各3件 18.8%)	勤務問題 (2件 8.0%)	経済・生活問題、その他 (各1件 2.4%)
実数	16件	25件	24件

※複数の項目に該当するものがあるため、各項目の和は合計に一致しない。

資料：人口動態統計（厚生労働省）、地域における自殺の基礎資料（厚生労働省自殺対策推進室）

【図表 1 6 自殺未遂歴の有無別自殺者数の割合】（平成 25～29 年の累計）



資料:人口動態統計(厚生労働省)、地域における自殺の基礎資料(厚生労働省自殺対策推進室)

【図表 1 7 自殺未遂歴の性別内訳】（平成 25～29 年の累計）

		n65	
		自殺未遂歴あり	自殺未遂歴なし
男性		7 人(15.9%)	33 人(75.0%)
女性		9 人(43.9%)	10 人(47.2%)
			44 人
			21 人

資料:人口動態統計(厚生労働省)、地域における自殺の基礎資料(厚生労働省自殺対策推進室)

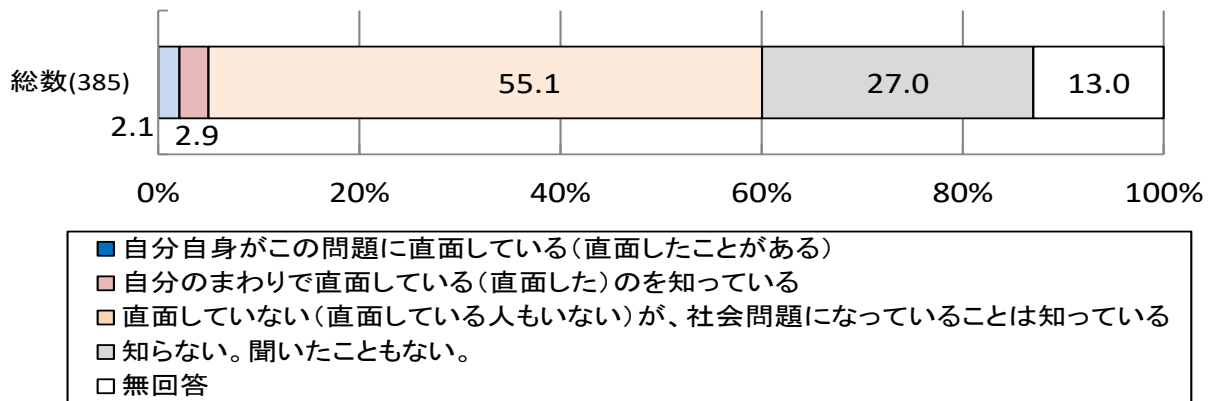
(2) 市民意識

第3次吉川市地域福祉計画の策定にあたり実施した、市民アンケート調査¹によると、自殺問題が社会問題になっていると認識している人は6割の状況です。

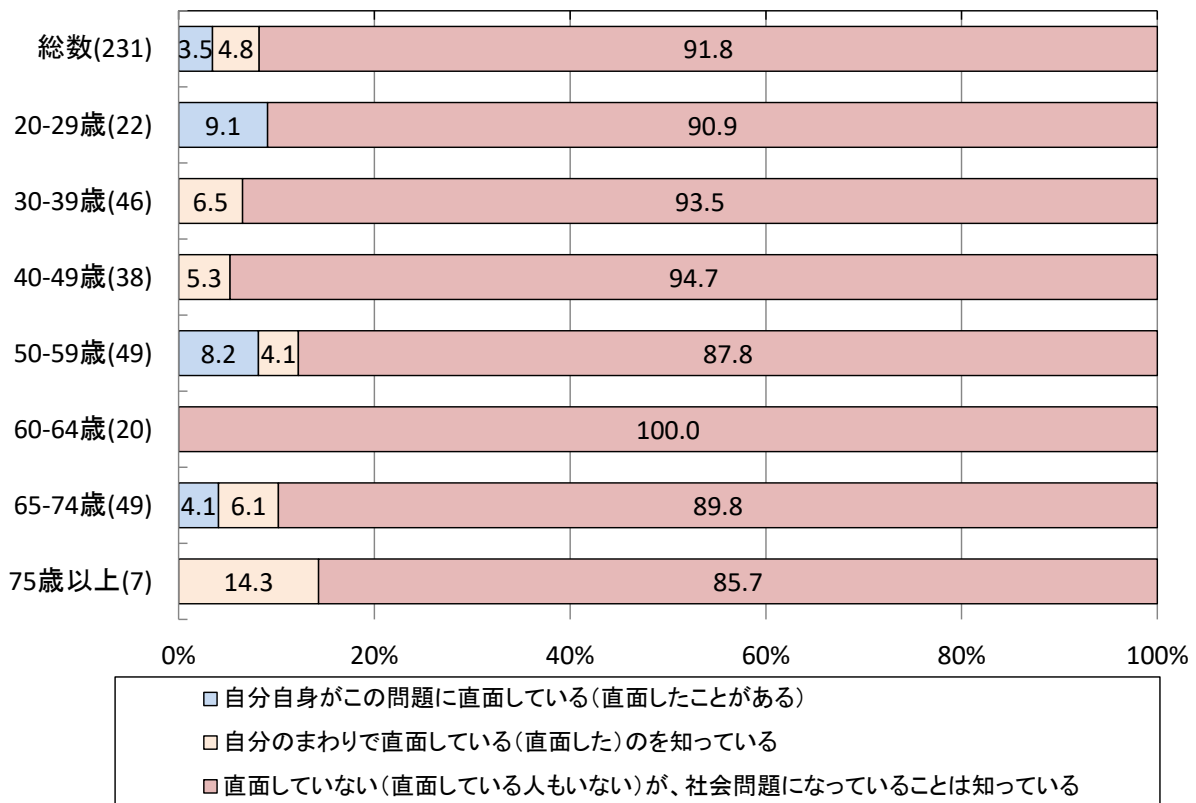
また、認識している人の年齢別集計では、自殺問題に直面したことがあると回答した人は、20歳代と50歳代で多くなっています。

【図表18 自殺問題に対する認識について】

「自分自身がこの問題に直面している（直面したことがある）」
 「自分のまわりで直面している（直面した）のを知っている」
 「直面していない（直面している人もいない）が、社会問題になっていることは知っている」のいずれかに回答した方のみは、60.1%



【図表19 認識のある方の年齢別集計】

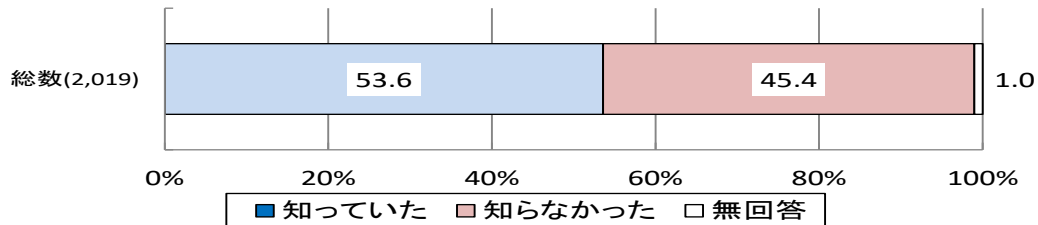


¹市民アンケート調査 平成28年7月8日から8月3日にかけて実施。平成28年5月1日現在で20歳以上の市民から1,000名を無作為抽出し、郵送により調査票を発送・回収を行った。回収数は385票、回収率は38.5%。

《参考》国の「平成28年度自殺対策に関する意識調査」²

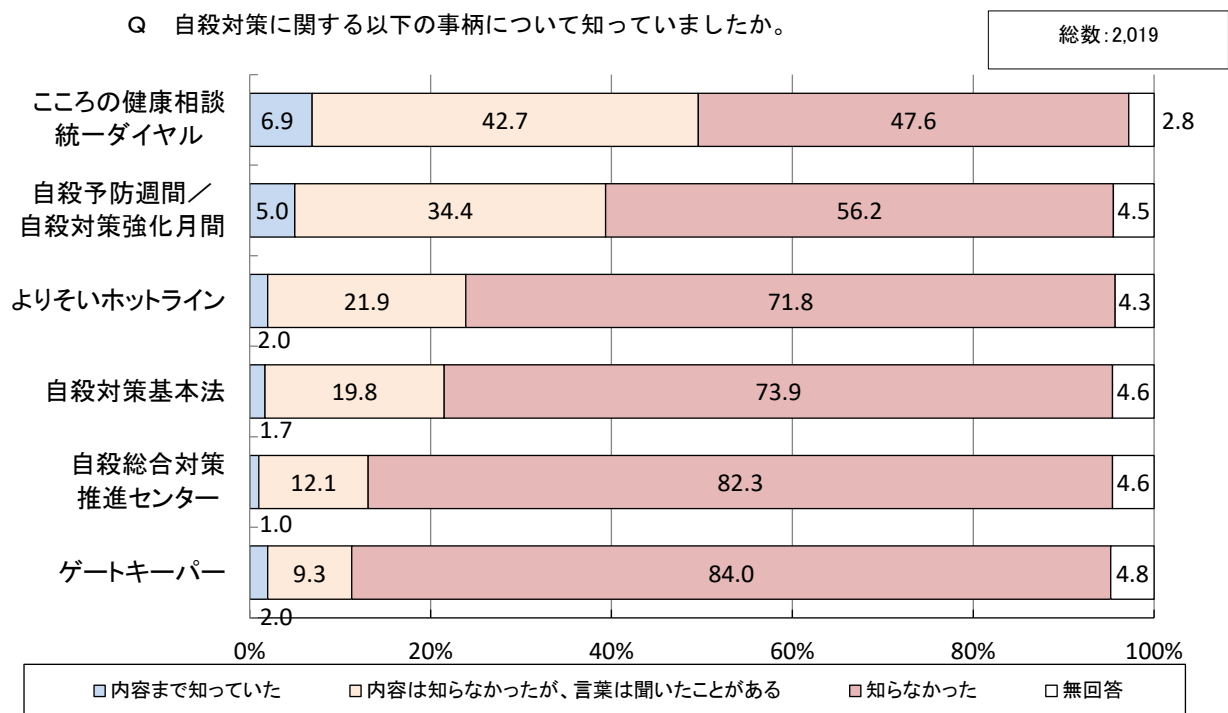
【図表20 自殺者数の認知度】

Q 我が国の自殺者数は長い間、毎年3万人を超え、この数年は3万人を下回っていますが、平成27年においても約2万4,000の方が亡くなっています。あなたは、毎年、このように多くの方が自殺で亡くなっていることを知っていましたか。



【図表21 自殺施策に関する事柄の認知度】

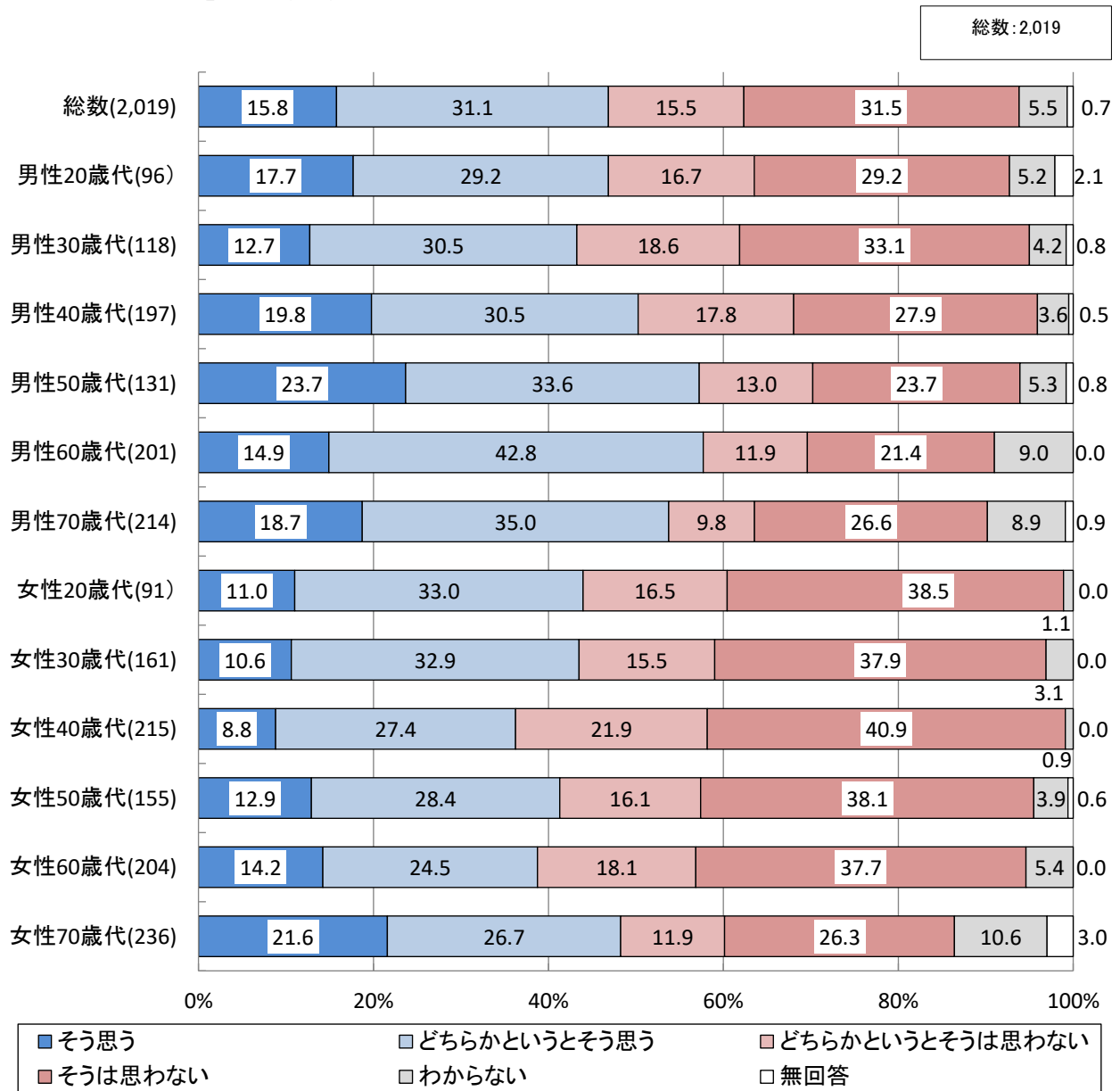
Q 自殺対策に関する以下の事柄について知っていましたか。



²国の「平成28年度自殺対策に関する意識調査」 厚生労働省により平成28年10月13日から10月30日にかけて実施。全国20歳以上の日本国籍を有する者から3,000名を無作為抽出し、調査員による留置法で回収を行った。回収数は2,019人、回収率は67.3%。

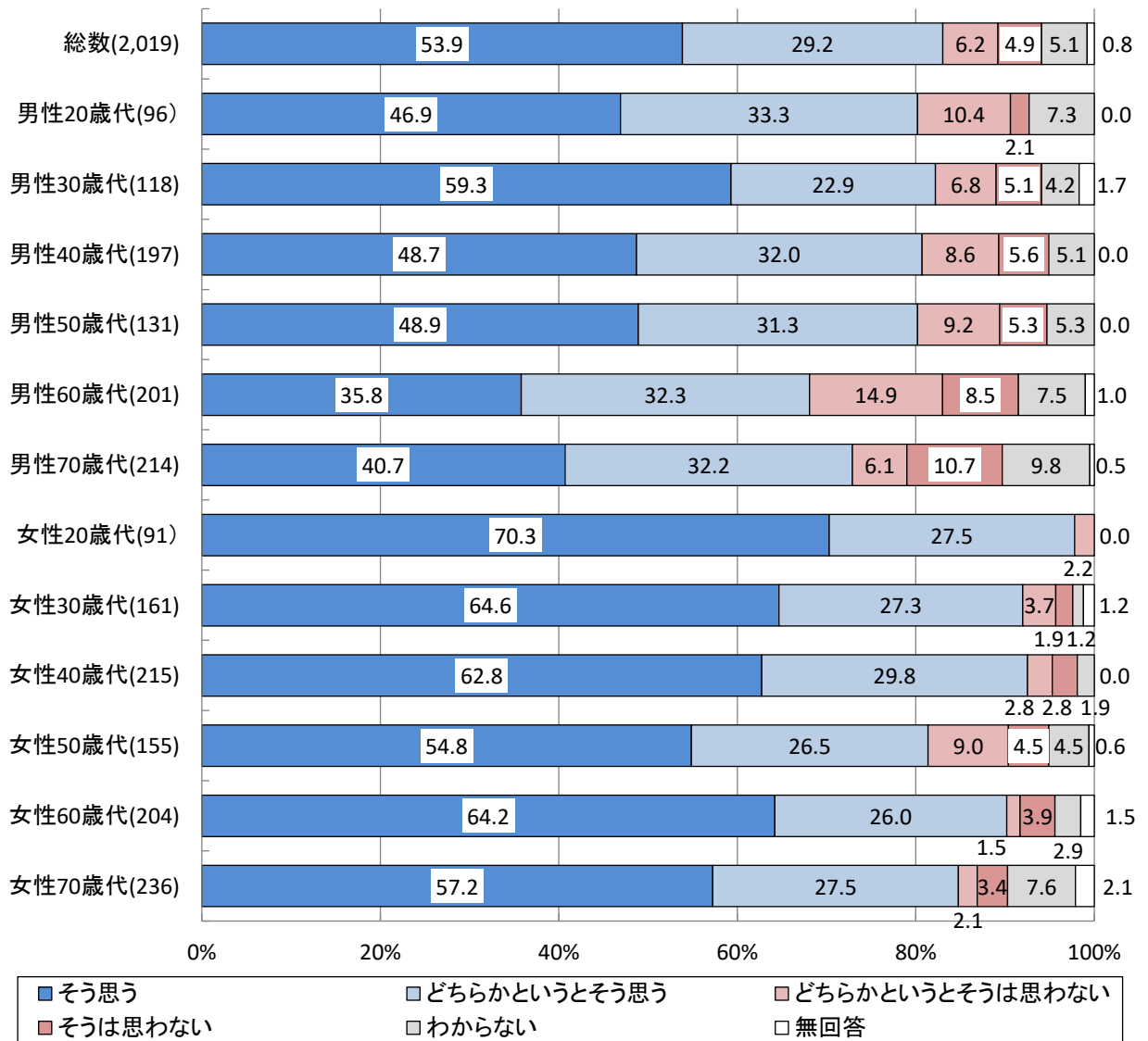
【図表22 相談や助けを求めることへのためらい】

Q 悩みを抱えたときやストレスを感じたときに、誰かに相談したり、助けを求めたりすること
 ためらいを感じますか。



【図表2-3 不安や悩みやつらい気持ちに耳を傾けてくれる人の有無】

Q あなたの不満や悩みやつらい気持ちを受け止め、耳を傾けてくれる人はいると思いますか。



【図表2-4 今後必要な自殺対策】

Q 今後求められるものとして、どのような自殺対策が必要になるとお考えですか。（複数回答可）

